

駅前展示「生活福祉を考える衣食住展」

生活福祉科介護福祉専攻

田 岡 洋 子

毎年秋には大学祭や入学試験の頃となり、年1回の展示期間の到来となる。JR福知山駅の構内にある「市民の美術館」における展示が10月15日(火)～11月14日(木)の1ヶ月間、3ケースとも学生達の作品で一杯になった。作品は家政学実習やゼミナール演習の授業で、制作したり、考案したものである。主に2回生作品を展示するために搬入は3段階目の施設実習前に2回生全員で展示し、搬出は2回生の留守の間に1回生がすることになっている。

介護福祉士として考えねばならない生活の自立に対する考えや、人権を踏まえた介護の条件としての一つづつを表現するために、授業で学んだことに施設実習などの体験から「高齢者や障害者が自分で着脱をしやすく、自立に向けた衣服を考えて」グループ作品に説明や制作者名を書き加えて展示している。施設内で使用する衣服ばかりではなく、在宅の方々にも使用可能なことを考えている。社会とのつながりを持って生きていくための冠婚葬祭用車椅子使用時のリバーシブルスーツや、寒い時にも屋外に出て、散歩を楽しんでいただくための防寒着なども展示した。高齢になり、生きる条件のエネルギー摂取の食事には「いろいろなエプロン」を使用して楽しんでもらいたいとその多様な試み案をも展示した。快適環境造りの身近なところで、今の自分にあった衣服内気候造りのための重ね着に欠かせない、「ベストのいろいろ」も体型をカバーするためのウエストから下にフリルを加えたペプラム付きのものや、腕を通さず、肩にかけて脇止めするものなどアイディアを出した。もちろん気楽に着心地のよい普段着や寝る時にも単なるパジャマでなく、考案加味の作品である。



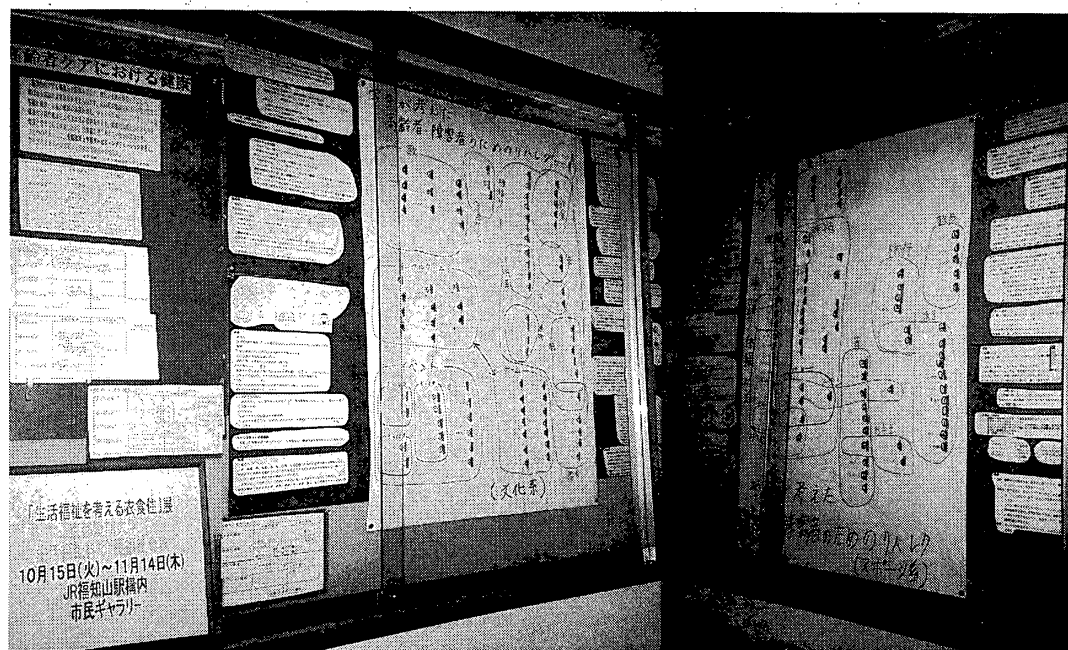
受理：2003年1月16日（成美学会）

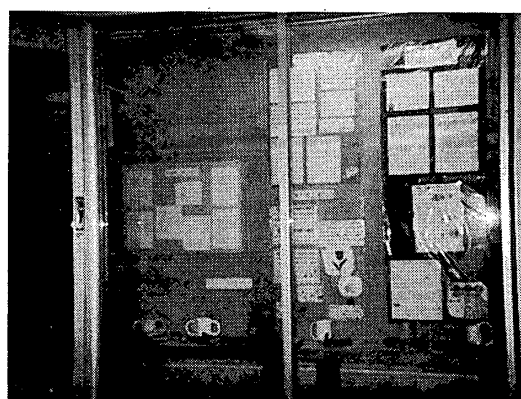
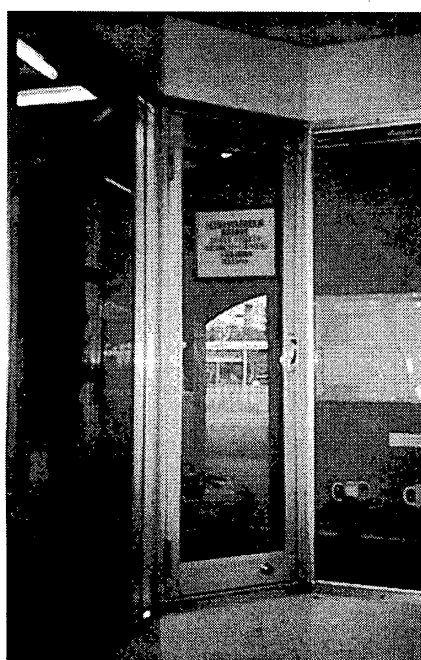
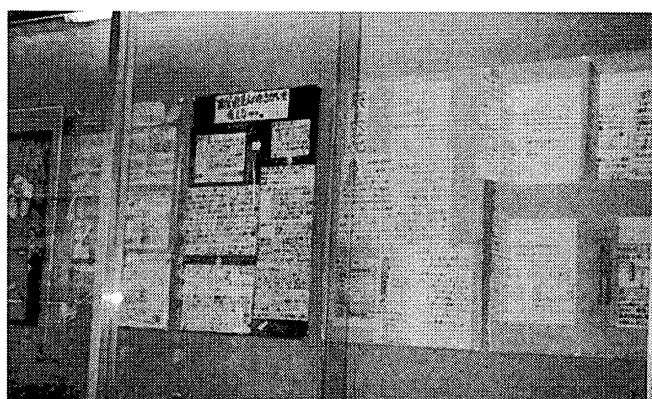
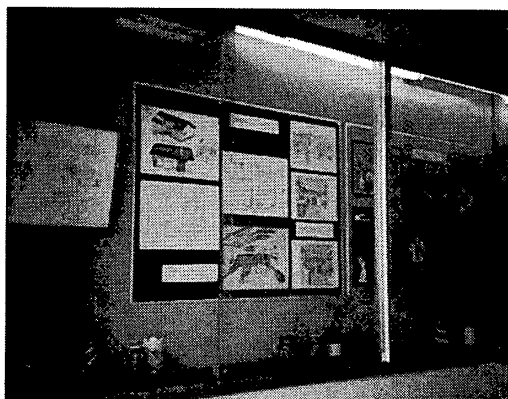


車いす使用者用
フォーマルにも着られる
リバーシブル
ケープ・ひざかけ式スカート

車いす使用者用
お出かけ用
はげましジャケット

高齢になると足元がたよりなくなり、そのためにもやさしい靴を考え、図で表現したアイデアを展示した。また、施設における生活で、高齢者にとっての自立を考え、少しでも楽しく、生活リハビリをと、生きがいにつながる内容になればと多くの例を出し、KJ法（創造性開発のための技法）による整理をして、今後の実習や実際に使う時の参考にしようとした。





また、福祉施設のサークルやクラブ活動で生かしてもらったヒントに「切り絵」「創作花瓶」の作品例や、視覚、聴覚、触覚による認識と誘導を優先した援助方法の試みとして「痴呆性老人を考える」グループ発表を展示した。

1 回生の作品としては残存機能を生かした食生活の工夫として「自助具：スプーン&フォーク」や車椅子利用者のためのキッチン、快適に使える台所空間を考えた作品や高齢者や障害者に対応できる住宅設計の試みなども模型や図による展示をした。展示のようすを写真で示す。